果樹８月下旬の巡回調査結果の概要について

このことについて、以下のとおりですので、病害虫防除指導の参考にしてください。

【東北信】　巡回日８月17、18、19、20日

１　りんご（東信３ほ場、北信８ほ場）

（１）褐斑病は、発病葉率は高くないが、管内で広く散見された。発病葉率は3.3%であった。

（２）輪紋病は、東信１ほ場、北信１ほ場でみられ、発病果率は0.3%であった。

（３）炭疽病は、北信１ほ場でみられ、発病果率は0.3%であった。

（４）キンモンホソガは、新梢葉の先端から３枚目を調査し、東信１ほ場、北信４ほ場でマインがみられ、被害葉率は0.7～6.0%であった。

（５）ハダニ類の成幼虫は、リンゴハダニ、ナミハダニとも管内広く発生がみられた。10葉当たりの成若幼虫数は最も多いところで、リンゴハダニが約300頭、ナミハダニが約200頭であった。

（６）ハマキムシ類の被害新梢はみられなかった。

２　ぶどう（東信１ほ場、北信５ほ場）

（１）べと病は、巡回調査地点では発病がみられなかったが、北信地域では発生しているほ場もあった（図２）。

（２）黒とう病は発生がみられなかった。

（３）チャノキイロアザミウマの被害葉はみられなかった。

３　もも（東信２ほ場、北信４ほ場）

（１）灰星病は、東信１ほ場でみられ、発病果率は0.3%であった。

（２）モモハモグリガの被害葉はみられなかった。

（３）クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。



図１　リンゴ輪紋病の発病果（北信地域）



図２　ブドウべと病の発病葉
（北信地域　調査対象外ほ場）

【中南信】　巡回日８月19、20、21日

１　りんご（南信５ほ場、中信５ほ場）

（１）褐斑病、輪紋病の発生はみられなかった。

（２）炭疽病は南信の１ほ場で部分的に発生がみられた。発生量はわずかだった。

（３）キンモンホソガの新梢上位葉３枚目への寄生は、南信２ほ場、中信１ほ場でわずかにみられた。

（４）ハダニ類は全般に寄生がみられた。南信２ほ場、中信２ほ場は、７月下旬からリンゴハダニの寄生量が多く、白化した葉がめだっていた。ナミハダニは南信２ほ場、中信３ほ場で寄生量が多かった。ハダニ類の寄生が多い園地ではカブリダニの発生が見られたが、いずれも量はあまり多くなかった。

（５）ハマキムシ類の寄生は新梢、果実ともに、みられなかった。

２　なし（南信５ほ場、中信１ほ場）

（１）うどんこ病、黒星病、黒斑病、輪紋病の発生はみられなかった。

（２）カイガラムシ類の寄生はみられなかった。

（３）吸蛾類、ハマキムシ類による果実被害はみられなかた。

（４）ハダニ類の寄生はカンザワハダニが１ほ場、ナミハダニが３ほ場で寄生量はごくわずかだった。

３　ぶどう（南信２ほ場、中信３ほ場）

（１）べと病、黒とう病の発生はみられなかった。

（２）チャノキイロアザミウマの被害葉は、結果枝の先端５葉目にはみられなかった。

４　もも（南信１ほ場、中信１ほ場）

（１）中信のほ場では、灰星病、せん孔細菌病の果実被害はみられなかった（南信は収穫終了）。

（２）モモハモグリガの寄生葉はみられなかった。

（３）クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

【その他】

（１）県下のうめ巡回調査ほ場において、アブラムシ類、クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの発生はいずれもみられなかった。

（２）りんご、なし巡回調査ほ場において、火傷病、コドリンガの発生はいずれもみられなかった。

（３）巡回調査をしている過程で、山林や河川敷のオニグルミで、トサカフトメイガの寄生が昨年に引き続き多かった（図３）。カシグルミにはトサカフトメイガの寄生はみられず、葉の被害はアメリカシロヒトリによるものであった。



図３　オニグルミ葉上のトサカフトメイガ

（中信地域）